

本審査基準は重要な形質を定める最新の告示を反映していません。

出願等に当たっては、最新の重要な形質をご確認ください。(以下 HP の植物区分ごとの特性表参照。

→https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hinshu/info/sinsa_kijun_jp.html)

なお、それぞれの重要な形質に対する定義等は変更されていません。

野菜品種特性分類調査基準

ミ ツ バ

ミツバの栽培には、土耕及び養液栽培により、は種後密植状態で栽培し、収穫・出荷する型（青ミツバ）と、養成した根株を用いて、順次軟化施設に伏せ込み、軟化して出荷する型（“切ミツバ”，一部に根株に盛土して軟化する“根ミツバ”）とがある。

青ミツバ型の栽培を行う品種の調査・記載に必要な形質は、は種から植物体が成熟し、地上部が枯死（または抽だい）するまでの形質であるが、切ミツバ型の栽培を対象とする品種では、前者に加えて、根株養成に関連する形質と根株伏せ込み後収穫するまでの形質が必要となる。

この調査基準では、根株養成のみに関係する形質項目については、備考欄に“根株養成についてのみ”と注をつけ、また根株伏せ込み後に関係する形質項目については、別に軟化栽培の項を設けた。したがって、青ミツバ型栽培専用の品種においては、根株養成及び軟化栽培関連形質について記載する必要はない。

- 1 草姿・葉・葉柄に関連する形質は、東海・関西を基準とすれば、8月下旬まき、まき溝幅15cm、株間5cmでは種後60日目に判定（Ⅷ1、2及びⅧ7～23）
- 2 葉に関する形質は、前記の最大葉で判定（Ⅷ7～23）
- 3 ミツバの各部位の名称は参考図－1によった。

* 必須形質

重要 形質	形 質	定 義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種名	備 考
草性	1 草 姿*	秋まき収穫期に株の外周部の主要な葉柄が地表と作る角度	観察	立	3	関東(タ)	
				中	5		
				開	7		
	2 草 丈*	同上期、地際部より最大葉の葉先までの高さ	観察	低	3	関東(タ)	
				中	5		
				高	7		
幼植 物の 形状	3 はい軸の緑色の程度	第1葉出現時のはい軸の色	観察	淡 緑	3	関東(タ)	混ざり株は有りとする
				緑	5		
				濃 緑	7		
	4 はい軸のアントシアンの有無	同上期、はい軸のアントシアンの有無	観察	無	1		
				有	9		

重要 形質	形 質	定 義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種名	備 考
幼植物 の形状 (つづき)	5. 子葉の大きさ	同上期の子葉の大きさ	観察	小 中 大	3 5 7	増森系白莖(D)	
	6. 子葉の緑色の程度	同上期の子葉の色	観察	淡 緑 緑 濃 緑	3 5 7	関東(外)	
	7. 葉の大きさ*	草姿判定時の三小葉を包括した輪郭からみた葉の大きさ	観察	小 中 大	3 5 7	関東(外) 柳川 2 号(柳)	
	8. 葉の色	同上期	観察	淡 緑 緑 濃 緑	3 5 7	柳川 1 号(柳)	
	9. 葉の光沢	同上期	観察	小 中 多	3 5 7	柳川 1 号(柳) 大阪白莖(高)	葉裏もみる
	10. 葉 数 *	同上期の一株全展開葉の多少	測定	少 中 多	3 5 7	関東(外)	側芽を除く
葉の形	11. 葉面の波うち	同上期	観察	少 中 多	3 5 7	関東(外) 柳川 2 号(柳)	
	12. 欠刻の深さ	同上期	観察	浅 中 深	3 5 7	関東(外)	
	13. 欠刻の多少	同上期	観察	少 中 多	3 5 7	関東(外)	

重要 形質	形 質	定 義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種名	備 考		
葉の形 (つぎ)	14. 鋸歯の多少	同上期	観察	少 中 多	3 5 7	関東(外)			
	15. 頂小葉基部 の形	同上期	観察 (図 - 2)	菱 形	1				
				心 臓 形	2 3				
	16 頂小葉の大 きさ	同上期	観察	小	3	大阪白茎(高)			
				中	5				
				大	7				
	葉柄 の形 状	17 葉柄の太さ*	同上期, 葉柄の太さを全 体としてみる	観察	細 中 太	3 5 7		大阪白茎(高)	
		18 葉柄の長さ*	同上期, 葉柄の基部から 小葉分岐点までの長さ	観察	短	3			
					中	5			
長					7				
19 葉柄の湾曲 部位		同上期	観察	頂 部	3	関東(タ) 関西(タ)			
				中 部	5				
				基 部	7				
20. 葉柄の色 *		同上期	観察	淡 緑	3	柳川 1 号(柳)			
				緑	5				
				濃 緑	7				
21. 葉・葉柄の アントシ アンの有 無		同上期	観察	無	1				
				有	9				
22. 葉・葉柄の 軟らかさ	同上期	観察	軟	3	関東(タ)	湯どおしし て, かねで 判定			
			中	5					
			硬	7					

重要 形質	形 質	定 義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種名	備 考
種子 の 形状	23 種子の形	完熟種子の形（基本形は長紡錘形）	観察 100 粒以上 でみる	細	3		
				中	5		
				太	7		
生態 的 特 性	24. 草 勢	草姿判定時株全体でみる	観察	弱	3	関東(タ)	軟化ミツバに ついてのみ 必須形質 青ミツバに ついての み
	25. 分けつ数*	4月～5月上旬まきで、 根株掘り上げ時の分け つ数	測定 (10個) 体平均	中	5		
				強	7		
				少	3		
				中	5		
				多	7		
	26. 早 晩 性*	秋まき栽培におけるは種 から収穫適期までの日 数	観察	早	3	関東(タ)	
				中	5		
				晩	7		
	27. 抽だい性*	春まき（関西基準で3月 下旬～4月上旬まき）、 うすまき（4 ml/m ² ） における抽だいの早晩	観察 (半数抽 だいす る時期)	低	3	柳川1号(柳)	
				中	5		
				高	7		
	28. 耐低温性	青ミツバでは無被覆栽培 での越冬性、軟化ミツ バでは根株の越冬性	観察	低	3		
				中	5		
				高	7		
	29. 耐高温性	高温期での栽培適応性	観察	低	3	柳川1号(柳)	
				中	5		
				高	7		
	30. 耐 湿 性	露地栽培での多湿に対す る適応性	観察	低	3		
				中	5		
				高	7		
種子 の 性 状	31. 種子の休眠	採種直後は種（発芽試験） してみた休眠の程度	測定 (100粒) (3反復)	浅	3	関西(タ)	
				中	5		
				深	7		

重要 形質	形 質	定 義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種名	備 考
品質	32 軟 白 性*	秋まき土寄せ軟化で判定	観察	低	3	関西(タ) 柳川1号(柳)	総合判断
				中	5		
				高	7		
	33 香 り	湯どおしした後切断して判定	観察	低	3		
				中	5		
				高	7		
耐病 虫性	耐病虫性						病虫害の種類ごとに抵抗性が明らかになったときに入れる

軟化ミツバについて

4月中～5月上旬まき、12～1月伏せ込み軟化である。ただし、夏採りを主体とするものは9月中旬まき、6～7月伏せ込み軟化でみる。項目1, 9, 10を除き調査は第1回の萌芽または収穫物でみる。状態または区分の階級値の5の標準品種は柳川1号または2号を用いるが、夏どりでは柳川1号、その他の時期は柳川2号とする。

(* 必須形質)

重要 形質	形 質	定 義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種名	備 考
軟化 特性	1 養成根株の 揃い*	伏せ込みのための根株掘り取り時の揃い	観察	不 良	3	柳川1号または2号	
				中	5		
				良	7		
	2 萌 芽 数*	伏せ込み後の1株当たり萌芽数	観察	少	3	柳川1号または2号	
				中	5		
				多	7		
	3 軟化葉柄の太さ	第1回目の収穫可能葉柄の太さ	観察	少	3	柳川1号または2号	
				中	5		
				多	7		

重要 形質	形 質	定 義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種名	備 考
軟化 特性	4 軟化葉柄の 色	日入れ後収穫期の軟化葉 柄の色	観察	乳 白 黄 白	1 2	柳川 1 号ま たは 2 号	白色が基準 となる
	5 軟化葉柄の アントシ アンの有 無	同上期	観察	無 有	1 9		
	6 軟化葉柄の 数	第 1 回目の収穫可能葉柄 数	観察	少 中 多	3 5 7	柳川 1 号ま たは 2 号	
	7 萌芽の揃い	伏せ込み後の萌芽の揃い	観察	不 良 中 良	3 5 7	柳川 1 号ま たは 2 号	
	8 軟化葉柄の 伸長性	萌芽後収穫期までの生育 の速さ	観察	低 中 高	3 5 7	柳川 1 号ま たは 2 号	
	9 第 2 次萌芽 [*] の再生力	第 1 回目の収穫後の再生 力	観察	不 良 中 良	3 5 7	柳川 1 号ま たは 2 号	
	10 第 3 次萌芽 の再生力	第 2 回目の収穫後の再生 力	観察	不 良 中 良	3 5 7	柳川 1 号ま たは 2 号	

図-1 植物体の名称

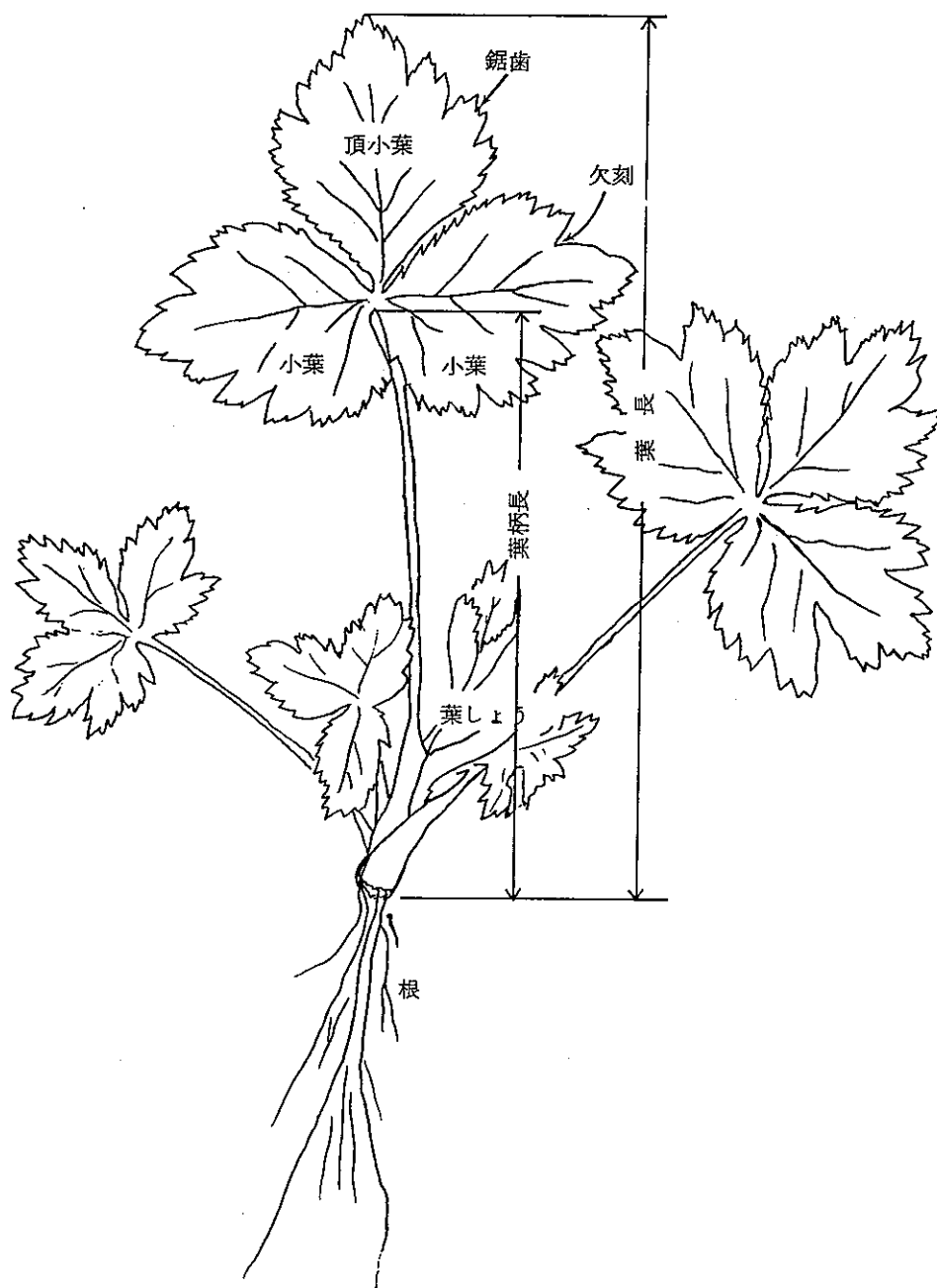
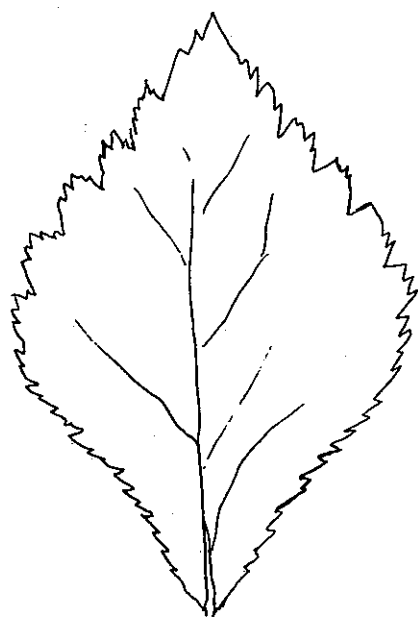
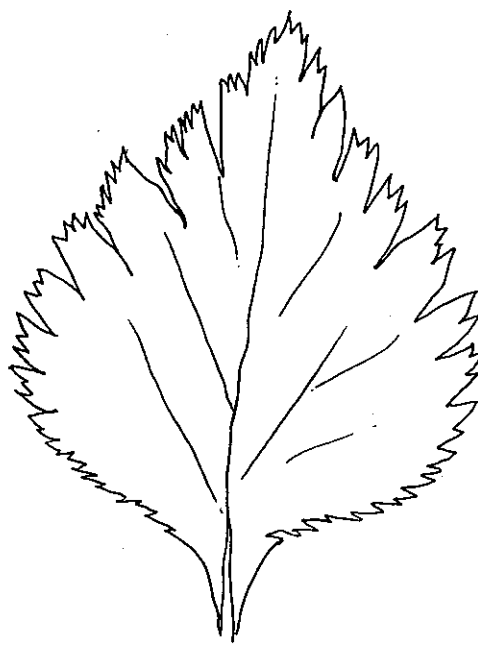


図-2 頂小葉の形



菱 形



心 臟 形